

# 飼肥料木 栽培の奨め

飼肥料木の栽培の必要性が叫ばれてからまだ年数が浅いため、従来あまりその真価が農家の方々にわかつていただけなかつたが、最近漸くその価値が認められ、各地で栽植の希望が増えて来たので、ここに簡単にこれら飼肥料木について説明を加え、その栽植を御奨めいたす次第です。

禿山、傾斜地などの土壌流亡防止、地力増進並びにかかる土地からの飼料生産及び海岸の砂防用樹としては勿論、最も速かに防風林を造成する方法として、わが国のように山岳、海岸並びに季節風の多い所では大いに活用すべきものである。今ここで飼肥料木として最も適当であるといわれているイタチハギ及びトゲナシアカシヤについて説明いたします。

## イタチハギ

荳科の落葉灌木で、木の姿はハギに類似し、葉はアカシヤに似ている。花は黒紫色で総状となつて各枝の先端につく。氣候、土壤を選ばず、九州から北海道まで栽培可能であり、一般の樹木の育たない砂地や瘠地などでもよく生育し、栽培は極めて容易である。日当りのよい所が勿論良いが、採草地への混植、果樹園の間作などにもよい生育をする。

葉は家畜に給飼して飼料とするが、蛋白

質に富み、栄養価は極めて高い。大家畜は馴れるまで嗜好は若干低いが、山羊、綿羊、鶏などのためには極めてよい飼料であり、乾燥、粉碎して濃厚飼料とともに与えるるとよい。収量は土地、栽植本数により異なるが、よく生育する所では反収六〇〇貫くらいは穫れる。

### 栽培利用法

イタチハギはその強健性を活用し、禿山の緑化、傾斜地の土壌流亡防止に利用し、併せてかかる土地から飼料を生産することに役立つのが適当である。禿山の緑化、砂防のためには坪当り五〜六本植（反当り千五百〜二千本）を植える。土地が斜面であれば等高線に数列に植えることよい。また生垣、防風用として植栽することも、生長が速いので早急に役立てることができ。増殖は種子を直播するか、苗によるかいずれも容易であるが、一般に苗による方が経済的であり爾後の生長も早い。また株分け、挿木、枝播き（二〜三芽を有する枝の切穂を苗床にまいて苗を作る）などによる増殖も可能である。

定植は落葉後苗をとり直ちに植込むか、または春早く定植する。葉の落ちた枝は、ザル、カゴなどの細工物を作るのに竹の代用として広く利用せられ、特に北海道のような竹の少ないところ

では蔬菜類の手竹代用としても極めて利用価値が高いものである。

## トゲナシアカシヤ

普通街路樹などに植えられているトゲニセアカシヤとよく似ている木で、幼時小さいトゲが一時現われることもあるが、その後はトゲはほとんど出ない。最も普通に利用されているのは青島トゲナシアカシヤと英国トゲナシアカシヤとである。後者は前者に比し枝も細く葉も小形であるが、枝数や葉数が多く、灌木で傘状をなし、一名パラソルアカシヤの名があり、一見して区別ができる。青島種は喬木性で飼肥料及び薪炭材、または坑木ともなる。いずれも荳科に属し生長早く瘠地でもよく育ち、また根に寄生する根瘤菌により土

地を肥やし、下草や他の樹木の生長を促す力が大きい。また葉は家畜の飼料として良くその蛋白質の含量は青刈大豆に匹敵する。家畜の嗜好もよく、乾燥貯蔵して他の飼料に混じて与えることよい。

### 参考 イタチハギの飼料成分表（葉部）

種 別	粗蛋白質	粗脂肪	粗纖維	可溶性無窒素	灰 分
イタチハギ	三・六	五・五	二一・〇	四九・二	五・〇
チモシ	七・〇	二・〇	二七・四	四三・三	四・〇
レッドクローバー	三・四	八・〇	三三・四	三六・四	五・〇

本年度飼肥料木苗の価格は次のとおりでございます。

大量の御買上並びに小苗にてもよい方には特別勉強価格で差上げますので何卒多数御買上げ下さい。発送は十月下旬より十一月中旬まで。

イタチハギ 一〇〇本 二五〇円  
トゲナシアカシヤ英国種 一〇本 二五〇円  
トゲナシアカシヤ青島種 一〇本 二五〇円

繁殖は種子または苗によるが、種子はめづりに結実しないので普通枝挿、埋幹、根挿、埋根などによつて苗を育成する。普通行う枝挿は一年生の枝を十種くらいの長さにとり、葉痕部の直下をよく切る刀で切り、ホルモン剤で処理して予め準備した挿床にさすことよい。